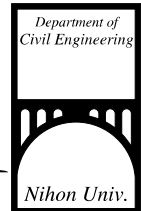


# シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方は購読を希望される方は、必要事項(卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレス)明記の上、[mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp](mailto:mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp)で購読申し込みをしてください。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

## 教室主任岸井隆幸教授の新年の挨拶



あけましておめでとうございます。

2007年が始まりました。

振り返ると今から50年前、1957年には東京の都市高速道路の構想が動き出しました。数寄屋橋が取り壊され、下にショッピングセンターを抱えた立体道路の工事が進められています。そしてコカコーラやポリバケツが日本に本格的に登場したのがこの年であり、官庁がメートル法を使うようになり、閣議で東京オリンピック誘致が決定されました。力道山は日本中の声援を受けて鉄人ルーテーズに挑み、王貞治投手を擁した早稲田実業が春の選抜を制し、立教の長島が六大学本塁打新記録を達成して巨人と入団契約したのもこの年です。身近なようでも50年、大昔のようでも親しみ深い50年だと思います。現在の平均寿命から考えると今の学生は50年後の2057年にも存命である可能性が高いと思われます。是非、彼らが振り返って楽しい50年前、2007年にしたいものです。

ちなみに、この年に代々木ゼミナールが開校しています。お世話になった人も多いのではないのでしょうか？50年前に感謝。

## 土木工学科スポーツ大会開催される

11月11日(土)船橋キャンパスにおいて、土木工学科1年生から大学院生までの学生200名以上が参加して、土木工学科スポーツ大会が開催されました。当日は天候が崩れ、グラウンドでの競技は中止になりましたが、室内競技で大いに盛り上がりました。スポーツ大会終了後は、パスカルホールにて懇親会が行われ、学生と教員の親睦が深められました。



土木工学科幹事長 学部3年 水島順子さんのメッセージ

今回のスポーツ大会は縦と横の繋がりを深める事に重点を置きました。当日は天候に恵まれず、進行が遅れてしまいましたが、沢山の方々のご協力により無事になり遂げる事が出来ました。また同時に、先生方や学生同士で親睦を深める事ができたと思います。そしてなによりも、幹事として運営に携わる事により、周りの方々の力と温かさを感じる事ができました。ご協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。

## 第 50 回日本大学工学部学術講演会について

日本大学工学部学術講演会が 11 月 25 日(土)に駿河台校舎において開催され、土木部会では口頭発表 36 編、ポスター発表 31 編の論文が発表されました。講演会終了後、2 階カフェテリアにて、懇親会が行われ、内外から多数の参加者が親睦を深めました。

なお、学術講演会優秀発表賞の受賞者として次の 3 名が選ばれました。

大学院学生 桐生 和明

「高炉スラグを利用した汚染土壌中の六価クロム溶出抑制に関する研究」

大学院学生 河又 康博

「地盤緒元を固定する Z e h a l 法—適用例」

大学院学生 小堀 貴弘

「沈殿時間を著しく短縮した嫌気—無酸素—好気汚泥のリン除去活性」



口頭発表



ポスター発表で受賞された河又康博さん

## 就職懇談会について

例年開催している企業と学生の就職懇談会が 12 月 15 日(金)午後 5 時より午後 7 時半まで駿河台校舎 1 号館 C S T ホールで開催されました。57 企業から人事関係者や本学科 OB が来校され、来年度就職を目指す 3 年生や大学院 1 年生、約 230 名の学生が就職相談会に参加しました。懇談会終了後、企業の方々と教員との懇親会がカフェテリアで行われました。尚、本年 2 月に第 2 回就職懇談会を企画しております。



就職懇談会の様子

## 平成 19 年度 推薦入試結果について

附属高等学校等推薦入学試験(A 方式)が 12 月 17 日(日)に実施され、翌 18 日(月)には 21 名の合格者が発表されました。

現在までの推薦入試結果(情報)につきましては、シビルメールニュース・バックナンバーをご覧ください。

## 第 41 回 日本大学工学部公開市民大学講座について

開催日時	内容		受講料	無 料
①3月3日(土) 13:30~15:00	講 師	駿河台日本大学病院 内科外来医長 岡本真由美	申込方法	1. 往復ハガキ 2. 理工学部のホームページ( <a href="http://www.cst.nihon-u.ac.jp">http://www.cst.nihon-u.ac.jp</a> )
	講演演目	メタボリックシンドロームの予防と治療		
②3月17日(土) 13:30~15:00	講 師	愛知教育大学 教授 久本直見	申込先	〒274-8501千葉県船橋市習志野台7丁目24番1号 日本大学理工学部船橋校舎 公開市民大学事務局 Tel:047-469-5373
	講演演目	アスベストとあなたの健康		
③3月24日(土) 13:30~15:04	講 師	理工学部 教授 城内博	締 切 日	平成19年2月3日(土)必着
	講演演目	電磁場の健康影響について考える	開催場所	日本大学理工学部船橋校舎 13号館1325教室・テニスコート
③3月31日(土) (テニス教室) 13:30~15:03	指導講師	理工学部 教授 橋口泰武 理工学部 助教授 小川 貢 理工学部 専任講師 黒木 求	定 員	各種講座150名・テニス教室50名 (応募者多数の場合は抽選)

## 最近の教員活動状況



山崎 淳教授が fib 第二回コンGRESS・ナポリ 2006 で基調講演を行った。演題は、”Methodical Prestressed Concrete Bridges in the Last Decade”  
マンチーニ fib 会長（トリノ大学）の招請意図は、わが国の過去 10 年のプレストレストコンクリート橋の設計施工技術を、ヨーロッパの建設界に紹介したいとのことである。わが国のエクストラドーズド橋、波形鋼ウェブ橋、吊床版複合トラス橋など新鋭の形式、またプレキャスト工法の精緻化など技術革新を盛り込んだ橋梁の建

設計件数が 他国に比べて極めて多い。資源節減、建設時環境汚染の低減を可能にし、かつ新技術を入れつつ安全実証に堅実なわが国の 発注機関・受注産業双方の努力による建設の方法が注目されている。また、4 年毎の橋梁表彰では、フランスのミヨー高架橋、ギリシャのリオン・アンテリオン海上橋など超長大橋とならんで、92m 規模で徳島山中の谷を越える通学路のために建設 された青雲橋が、日本から初めて受賞した。この自碇式吊床版複合トラス橋の形式は、本学科社会人大学院非常勤講師の池田尚治横浜国大名誉教授が、横国大時代に三井住友建設を指導 して設計施工方法を考案されたものである。注：fib は、Federation Internationale du Beton (国際構造コンクリート連合)、1998 年設立、前身は FIP (国際プレストレストコンクリート連合) と CEB (ヨーロッパコンクリート委員会)、いずれも 50 年以上の歴史がある。第一回コンGRESSは 2002 年に大阪で開催され、組織委員長は池田名誉教授、実行委員長は山崎教授であった。



今回会場となった国際会議場



野村卓史教授が主査を務める「日本風工学会・風災害研究会」主催の報告会「平成 18 年 9 月台風 13 号強風被害と 11 月佐呂間竜巻被害」が、平成 18 年 12 月 18 日(月)の午後、駿河台 1 号館 CST ホールで開催された。土木、建築、気象分野の技術者、研究者のほか、気象予報士、損害保険業界、行政、報道関係者など 150 人の参加者があった。10 件の報告がなされ、台風 13 号の気象状況、九州地方を中心とした被害状況、延岡市を襲った竜巻の被害状況と被災後の行政 対応、および佐呂間竜巻の気象状況、被害状況などが 詳細に報告された。日本風工学会では、近年突風被害が頻発していることから、突風発生予測のための気象観測システムの整備、従来の耐風設計では対処できない脆弱構造の設計施工方法の改善などを、提言として政府等にアピールしてきたが、今回の報告会でも各報告者から それらが改めて訴えられた。野村教授は報告会の最初のセッションの司会と報告会終了時のまとめを担当した。なおNHKテレビがこの報告会について報道した。

延岡市を襲った竜巻の被害状況と被災後の行政 対応、および佐呂間竜巻の気象状況、被害状況などが 詳細に報告された。日本風工学会では、近年突風被害が頻発していることから、突風発生予測のための気象観測システムの整備、従来の耐風設計では対処できない脆弱構造の設計施工方法の改善などを、提言として政府等にアピールしてきたが、今回の報告会でも各報告者から それらが改めて訴えられた。野村教授は報告会の最初のセッションの司会と報告会終了時のまとめを担当した。なおNHKテレビがこの報告会について報道した。



報告会のまとめを担当する野村教授





梅村靖弘教授が平成 18 年 11 月 11 日発行の橋梁新聞で環境負担低減型コンクリートの現状と今後の展望についての談話が紹介された。

若松コンクリートは、日本大学理工学部との共同研究により開発したナノ粉砕技術の活用普及を図るための「ナノセメント研究会」設立に向けた準備室を 11 月 1 日に開設し、その技術顧問に梅村靖弘教授が就任した。さらにフライアッシュを用いた 2 次製品の品質評価に関する共同研究についても契約を締結した。

梅村靖弘教授は、平成 18 年 11 月 14 日に仙台第二合同庁舎 2 階共用会議室で行われた東北経済産業局と中間法人全国コンクリート製品協会東北支部主催の「コンクリート二次製品業界セミナー」において特別講演「コンクリート 2 次製品に未来はあるのか！ー21 世紀への挑戦！ー」を行い、またミルコン社と梅村研究室はフライアッシュコンクリートの空気量調整剤 MAC リートの性能確認に関する共同研究について契約を締結した。



### 平成 19 年度日本大学学術研究助成交付される

高橋正行助手が「階段状水路における空気混入流の特性に関する研究」で平成 19 年度日本大学学術研究助成金が交付されることになった。



羽柴秀樹専任講師は、11 月 30 日～12 月 1 日に沖縄県那覇市(場所：沖縄県青年会館)において開催された(社)日本リモートセンシング学会・第 41 回の秋季大会に、学会の委員および理事として学会講演会の全体企画、運営を行うため参加した。また、この会期中に同学会内に設置されている産官学の様々な研究メンバーからなる「高分解能衛星リモートセンシング研究会」の研究発表の全体取りまとめを行い「高分解能衛星リモートセンシングの地域緑地環境評価への応用」について研究発表を行った。



大沢昌玄助手が、11 月 18 日～19 日に沖縄県の琉球大学千原キャンパスにて開催された日本都市計画学会第 41 回学術研究論文発表会において都市計画研究室(岸井研究室)で行っている土地区画整理事業と跡地再開発に関する 2 編の論文発表を行った。

日本都市計画学会の論文発表会は、土木・建築・造園をはじめとする都市計画研究者及び実務者が一同に介す場であり、日本中の都市計画の問題と対策について幅広い意見交換を行うことができた。



### 金子雄一郎専任講師(写真左)、大沢昌玄助手、下原祥平助手(写真右)

は 12 月 1 日～3 日に、香川県高松市のサンポートホール香川にて開催された土木学会第 34 回土木計画学研究発表会に参加した。

本学科の都市計画研究室(岸井研究室)、交通研究室(島崎研究室)、社会基盤マネジメント研究室(金子研究室)の 3 研究室から 8 編

(主著共著を含む)の論文発表を行い、全国から集まった研究者により活発な意見交換がなされた。